

■日時・会場

11月21日(火)9:30～16:30

埼玉県県民健康センター 大ホール

■主なプログラム

【第1部】基調講演

講師 | 瀬川 翠 氏

建築家、株式会社 Studio Tokyo West 代表取締役

演題 | 「ちいさなはじまり、まちへのひろがり」

【第2部】パネルディスカッション

テーマ「まちをマネジメントする」とは

司会 | 藤村 龍至 氏

東京藝術大学美術学部建築科 准教授、RFA 主宰

内田 奈芳美 氏

埼玉大学人文社会科学部研究科 准教授

パネリスト |

- ・瀬川 翠 氏
- ・菅沼 朋香 氏
鳩山町コミュニティ・マルシェ コーディネーター
- ・新津 瞬 氏
アーバンデザインセンター大宮 デザインリサーチャー

【第3部】意見交換会

テーマ①「あなたのまちの価値とは」

②「価値を高めるためには」

③「担い手を増やすには」

参加者 | (順不同)

- ・椿峰まちづくり協議会 (所沢市)
- ・かすみ野自治会 (川越市)
- ・医療法人真正会 (川越市)
- ・白岡ニュータウン自主防災会 (白岡市)
- ・幸手市体育協会/NPO 法人クラブ幸手 (幸手市)
- ・株式会社ジモネット (所沢市)
- ・しあわせのたねプロジェクト (越谷市)
- ・中央グリーン開発株式会社 (越谷市)
- ・さいたま新都心まちづくり推進協議会 (さいたま市)
- ・関係自治体職員 (さいたま市、春日部市、幸手市)

■概要

基調講演をいただいた瀬川翠氏(建築家、株式会社 Studio Tokyo West 代表取締役)は、大学3年生の時に一軒家を改築し、シェアハウスの経営を開始。シェアハウスの一角にて、住人のハンドメイド作品を販売し始めると、自然と人が集まるようになり、まちに開かれた場所になったとの事例紹介がありました。また、銭湯を改修し、周辺の風呂なしアパートの住人が銭湯の管理費を負担し合って維持

していく新しい管理システムを構築、銭湯をコミュニティ形成の場として利用することとした話など、自身の経験に基づくまちづくりの事例を多数紹介していただきました。

「人」をプロデュースすることは「まち」をプロデュースすること、瀬川氏の説得力のある講演で、参加者の「まちのマネジメント」についての理解が少し深まった様子でした。

また、パネルディスカッションの冒頭では、鳩山町コミュニティ・マルシェコーディネーターの菅沼朋香氏から鳩山町に移住した人を集めた「移住者トーク」の開催等について、アーバンデザインセンター大宮の新津瞬氏から大宮区役所通りの「道路予定地の利活用」等についてお話をいただきました。

午後の意見交換会では、各地域でまちづくり等の活動をしている方々を交えて、まちの価値を高める方法、担い手を増やす方法等についての情報共有や意見交換を行いました。参加者からは「どんなに小さな活動でも、まず自分事として取り組むことが大切だと改めて感じた」「参加された皆さんの活動内容を聞き、今後の活動のヒントを得た」などの意見がありました。

多くの皆様に御来場いただき、好評のうちに政策研究交流会を終了することが出来ました。ありがとうございました。

2. 産民学官・政策課題共同研究 ミニレポート

今年度の政策研究、いよいよ終盤です。現在は、事業案の検討、現地調査、ニーズ調査を展開中。研究の様子を少しご紹介します。

■研究会1■

持続可能な郊外住環境実現プロジェクト
～空き家、高齢者、働き方から考える～

[コーディネーター]

藤村 龍至 氏(東京藝術大学美術学部建築科 准教授、RFA主宰)

[研究内容]

当研究会では、県内5か所のニュータウン（白岡/幸手・香日向/鳩山/所沢・椿峰/川越・かすみ野）をフィールドとして超高齢化社会における地域経営について研究しています。

11月13日には鳩山ニュータウンチームが「鳩山ニュータウンのみらいを考えるプロジェクト会議」を開催し、地域活動の担い手づくりのための意見交換を行いました。

また、11月19日には幸手チーム（対象のニュータウンは、香日向地区のラフィーナ幸手イトピア）が「香日向の未来、どう創る？」と題したシンポジウムを開催しました。冒頭、東京大学高齢社会総合研究機構特任講師の後藤純先生に「活力ある超高齢社会の協創」というテーマで講演をいただき、近隣住民の方とともに今後の香日向地区

のあり方について考えました。

今後も各プロジェクトチームが、それぞれのフィールドにおいて社会実験等を行い、効果的な政策提言に向けて研究してまいります。

■研究会 2 ■

公共空間の利活用による地域活性化プロジェクト

～公民連携で多様な「場」をつくるには～

[コーディネーター]

内田 奈芳美 氏（埼玉大学人文社会科学部研究科 准教授）

[研究内容]

当研究会では、公共空間の種類に応じた4つのプロジェクトチーム（街路/河川/公園/エリアマネジメント）を結成し、効果的な利活用の方法を検討しています。

今年が初年度の研究会ということもあり、前半は基礎研究が中心となりましたが、後半に向け社会実験の動きも活発になってきました。

11月5日には河川チームがNPO法人越谷住まい・まちづくりセンターが主催する、越谷市元荒川沿いの公園予定地で公園のあり方を検討するイベント「一日限定！PARK DAY」の場を活用し、河川利活用に関する意識調査を実施しました。

また、11月24日にはエリアマネジメントチームが、さいたま新都心歩行者デッキで日本郵政が開催した「郵便局物産展」に関する広告を出し、その効果を測定する社会実験を行いました。

引き続き基礎研究を進めながら社会実験等を並行して行い、新しい公共空間利活用の提案に向けて研究してまいります。

▼最近の研究会の様子は公式 Facebook からご覧ください。

https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=1673176962993071&id=1593552130955555

3. 政策研究よろず相談所、ご活用ください！

県・市町村の政策研究や政策形成研修を総合的にサポートさせていただくために昨年度開設。これまで、多くの方からご相談をいただきました。政策づくりのための庁内横断プロジェクトを立ち上げるにあたり政策形成の基礎を学びたい、プロジェクトの事務局運営方法を知りたいなど。

これからも、広域連合職員が政策研究や政策形成研修に関してあらゆる方向からお手伝いいたします。皆さまからのご相談をお待ちしています。

■今年度の実績

・政策形成研修の企画相談

→広域連合職員による講義を実施（半日コース、2日間コース等）

- ・企画づくり、講師選定、当日の立会い等
- ・政策研究会の運営相談
→企画づくりのサポート
- ・広域連合の産民学官・政策課題共同研究の研究成果を会議で説明

4. 知っておきたい、新たな取組み

埼玉県が実施する新たな取組みを紹介します。皆さんの生活に密接に関係する事項もあるかと思しますので、ぜひご覧ください！

■埼玉県救急電話相談の相談時間が24時間化されました。

平成29年10月1日午前9時から、埼玉県救急電話相談（大人・小児）の相談時間が24時間化するとともに、全国共通ダイヤル#7119が導入されました。急な病気やけがの際に、家庭での対処方法や医療機関への受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じます。

なお、これまでの#7000（大人の相談、医療機関案内）と#8000（子供の相談）も引き続き利用可能です。

詳細は、埼玉県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0703/20151214.html>

■自転車損害保険加入が義務化されます。

近年自転車事故による高額賠償請求事例が全国各地で散見されるなど自転車の事故に対する社会的な責任の重みが増してきている状況にあります。そのため、埼玉県議会9月定例会において、埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例を改正する条例が制定されました。自転車利用者等の自転車損害保険の加入義務化及び学校等における保険加入確認の努力義務が規定されています。施行は平成30年4月1日です。

詳細は、埼玉県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0311/jitensya/jitensyajyourei.html>

■防災ヘリコプター救助の費用が告示されました。

平成29年3月28日に「埼玉県防災航空隊の緊急運航業務に関する条例」が改正され、埼玉県内の山岳において埼玉県防災ヘリコプターによる救助を受けた場合に、原則として、手数料を納付していただくことになりました。平成29年10月24日に、対象となる地域、手数料の額、手数料の減免・除外の規定が告示されました。

施行は平成30年1月1日です。

詳細は、埼玉県ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0402/herizyourei/herizyourei.html>

